



東日本大震災とライオンズクラブ「奉仕」 ～ PR・ライオンズ情報の役割 ～

・湯沢秋田・十文字ライオンズクラブ、岩手・陸前高田に中古自転車80台送る

・「東日本大震災の復興支援のため、B級グルメフェア開催」5月14、15日の両日、岐阜県関市の文化会館前で334-B地区(岐阜、三重)主催のB級グルメフェアが開催された。

・「復興への希望の光に。地区年次大会で決意新たに」ゴールデンウィーク最後の週末、東日本大震災で被災した332-B地区(岩手県)、332-C地区(宮城県)の第57回年次大会が開催された。

・「大切なともだちにささやかなプレゼントを！」NPO阪神淡路大震災「1.17希望の灯り」(HANDS/堀内正美代表)のTASUKIプロジェクトが集め、ライオンズクラブのサポートで運ばれた贈り物が、4月13日に福島県猪苗町に避難している人たちに手渡された。

・333-C地区女性支援対策本部のメンバーらが、4月10日、岩手県釜石市を訪問し、東日本大震災により就職の内定取り消しや入社延期の通知を受けたり、決まっていた進学をあきらめ就職を考えている高校生らと面談。一人ひとりの事情をじっくり聞きながら相談に乗る「就職支援相談会」を実施した。

ライオンズクラブ国際協会公式機関誌「The Lion」日本語WEB版に掲載されている東日本大震災の援助活動のレポートです。活発な支援活動のレポートなどをもっと共有しないとライオンズクラブの一体感は醸成されないと感じております。

PR・ライオンズ情報の役割はここにもあることが理解できます。

活発な支援活動をする仲間達に触発されてライオンズとして協働する。その活動が社会にインパクトを与え、ライオンズクラブへの興味となって社会が受け止め始める。認知された活動からLIONSの理念を知り賛同した人が入会の意思をもって増えて行くという流れは極めて健全で、それこそがあるべき姿だと思います。

この地区においてももっと積極的に東日本大震災の支援活動に係わるべきだと思います。

東日本大震災において「今求められている支援活動」というテーマは、一般社会との接点が非常に多く、支援活動の方法は数多あります。震災と原発事故という広域且つ長期的な問題への対処が求められる今回の支援活動では、クラブ間で連携した広がりを持ったアクティビティの実行も計画が立て易いように思えます。そして何よりこのテーマは国際的にも注目されております。ライオンズクラブ国際協会長期計画委員会への報告書【選択的未來研究所の提言】から引用すれば

6.2 奉仕についての勧告

C. すべての奉仕活動は国際的な文脈の中での意味づけが必要であり、それは個々のクラブの活動が全体としてのライオンズの使命にどんなかわりを持つかということである。つまり本質的には、奉仕活動は地方的な関連性と国際的な意義の調和の上に行われなければならない。

新たに入会する会員は少なからず自分達の活躍の場を想い描いていると思います。

次期リーダーはその想いに応えるべき方針設定を行うべきだと思います。

さらに報告書【選択的未來研究所の提言】から引用すれば

G. 奉仕活動はその必要性もさることながら、それが会員の若い世代に何を訴えるのかを配慮しながら行われるべきである。「独立連盟」のようなグループは、アメリカでのボランティア活動や社会事業の累計を研究し、アメリカ人がボランティアのために使う時間と資金の向上を図ろうとする動きもある。彼らにそうした技術的援助を求めることも、ライオンズにとって有益であろう。広義において「変化への対応」を現実のものにするためには情報格差を如何に是正するかという点で、情報の伝達手段も含め重要だと思います。PR・ライオンズ情報は、その役割を担っていることに気がきます。そして情報伝達手段としてのIT技術をどのように組織の中に根付かせたら良いかを検証しながら進めるべきだと思います。



東日本大震災被災地へ勇気と希望を届けよう

ライオンズクラブ国際協会334-A 4R1Z 岡崎竜城ライオンズクラブ

| 目次： | |
|-----------------|---|
| 東日本大震災とライオンズクラブ | 1 |
| 第57回地区年次大会 | 2 |
| 例会紹介 | 3 |



- ☆ライオンズクラブ国際協会公式WEB[®] -ジ <http://www.lionsclubs.org>
- ☆複合地区ガバナ協議会議長連絡会議WEB[®] -ジ <http://japan-8md.sakura.ne.jp>
- ☆ライオン誌日本語版WEB[®] -ジ <http://www.thelion-mag.jp>

日時：2011年5月14日(土)午後3時より 場所：ウェスティンナゴヤ キャッスル

ガバナー年次報告 抜粋

奉仕事業(アケティビティ2010.7～2011.3.31)

アケティビティの件数 労力アケティビティ 905件
 金銭アケティビティ 2,279件
 アケティビティの金額 357,043,234円



各種委員会活動状況

◆MERL

2010年7月1日 120クラブ 5,336名

2011年3月31日 123クラブ 5,481名 新クラブ 知多サザンシニアライオンズクラブ
 (145名の純増) 岡崎クレストライオンズクラブ
 名古屋セントラルライオンズクラブ

◆LCIF・国際関係

献金(4月15日現在) MJF1000ドル献金 1,134口 94,294,717円
 20ドル献金 72クラブ 5,441,880円
 その他の献金 84,000円
 用途指定献金(クラブ 献金) 9,279,055円
 計 109,099,652円

◆YCE活動

冬季派遣 10名 冬季受入 14名
 夏季派遣 30名 夏季受入 10名(予定)

◆献眼・献腎・献血・骨髄移植推進活動

献血活動状況 成分献血 653名
 400ml献血 12,482名
 200ml献血 2,521名
 献眼登録者 618名 実施 5名
 献腎登録者 327名 実施 0名
 骨髄登録者 146名 実施 0名
 意思表示カード数 5,858名

※臍帯血バンク事業への理解と啓蒙推進を図るため、クラブ・ゾーン・リジョン単位で記念講演・コンサート・セミナーを活発に開催した。臍帯血バンクに対し多数のクラブが約350万円の寄付金を贈呈されました。



国際第二副会長に立候補された
 L. 山田 實紘
 334-B地区 美濃加茂LC所属



来賓として祝辞をのべられる
 愛知県知事 大村 秀章 様

「東日本大震災」関連の報告事項

☆334-A地区の活動状況

会員1人当たり3,000円をお願いし、合計16,329,000円(5,443名)をLCIFに「用途指定献金」を行いました。

用途指定献金(MJF) 123口 10,086,000円
 クラブ献金 9クラブ 9,289,055円
 中日新聞社会事業団 24クラブ 26,125,463円
 日本赤十字社 10クラブ 6,328,125円
 その他 10クラブ 6,033,000円
 支援物資 6クラブ 15,543,000円
 総額 89,733,643円



岡崎竜城ライオンズクラブ 大会出席者

第924回例会

日時:2011年05月11日(水) 午後12時30分～ 場所:定例会場 担当:MERL・財務委員会

MERL・財務委員会担当で第924回例会が開催されました。

結婚のお祝い

L.加藤 勲 L.太田直樹 L.和田誠一 L.川端 篤 L.萩原幸二

誕生のお祝い

L.伊藤貴久 L.小泉素子 L.岡田洋一

おめでとうございます。



ライオンズローア L.萩原幸二

第925回例会

日時:2011年05月26日(水) 午後12時30分～ 場所:定例会場 担当:出席委員会

東日本大震災による福島第1原子力発電所の被災に伴う事故により、放射性物質が拡散したことで地震や津波の被害を直接被らなかった地域でも、経済的な打撃が風評被害となって大きくのしかかっています。罹災証明のでない震災被害。風評被害は自らの手で克服するしかない震災被害のようです。当クラブの姉妹クラブのある会津若松市に限定して言えば、農作物の放射能汚染は無いことが発表されております。しかし現実には、農作物を中心に市場価格が大きく下落して販売数量も落ち込んでいます。顧客の意識を心配した流通業者が仕入れを控えた結果だと思われます。会津若松市や会津若松商工会議所は、地場農産物を販売する為の方策を検討しております。会津若松市農政課は販売促進の助成を行っております。会津若松商工会議所は各地の県人会に働きかけて「ふるさと会津宅急便」の募集を行ってまいりました。原発の問題が一日も早く収束して岩手県、福島県および近隣の県の経済活動が正常化することをお祈りするばかりです。このような問題に対する援助は、被災地に赴かなくてもできることなので他人事にせず何か援助ができるように次年度はクラブとして活動することを一員として願っております。

今例会は会員卓話がおこなわれました。

「土地と公図について」と題して講師をL.長坂宏子がつとめられました。



編集後記

PR・IT委員会はライオンズクラブを学べる場であると思う。ホームページや会報の記事のためにアクティビティを客観的に表現することになると社会との関係性を見ることになる。複合地区やキャビネットの方針との整合性も考えるようになる。幅広い世代で構成された組織をどのように運営するのか、「奉仕する心は同じである」はずなのになぜ一体感を感じないのか。など問題と対峙させられる。わかったことは情報の共有が不十分であるということ。積極的に情報を収集する会員とそうでない会員がいること。それを思うとPR・ライオンズ情報委員会は大役を担っていることに改めて気付くことになる。